



T10,T30マニュアル (飛行前)

イノチオプラントケア株式会社

1.機体を展開する

畳まれているアームを全て展開し、根本のアームロックを閉め、プロペラを広げる。

※プロペラを畳んだ状態でモーターを回転させると遠心力でモーターが振動し、故障の原因となる。



アームロック

2.送信機の準備をする

右図の電源ボタンを短押し→長押しして起動する。
(電源を切る場合も同様)

起動に成功すると振動する。

しばらく操作せずにいると、省電力のため画面がブラックアウトする。再表示させるには電源ボタンを短押しする。



2.送信機の準備をする

送信機のアンテナと背面との間の角度が 80° になるように調節し、操作中にアンテナの面が機体に向くようにする。



2.送信機の準備をする

楕円型のスイッチは
「P」に合わせる
(左右どちらでもよい)



P:Positioning(測位にGNSS使用)
A:Attitude(GNSS不使用)

3.機体の電源を入れる

コネクタ部分に汚れや水濡れがないことを確認し、バッテリーを挿す。「カチッ」と音がするまでしっかり挿し込む。

バッテリーの電源ボタンを送信機と同様に短押し→長押しする。
起動に成功すると起動音が鳴る。

送信機の状態LEDが赤から緑に変われば接続成功。

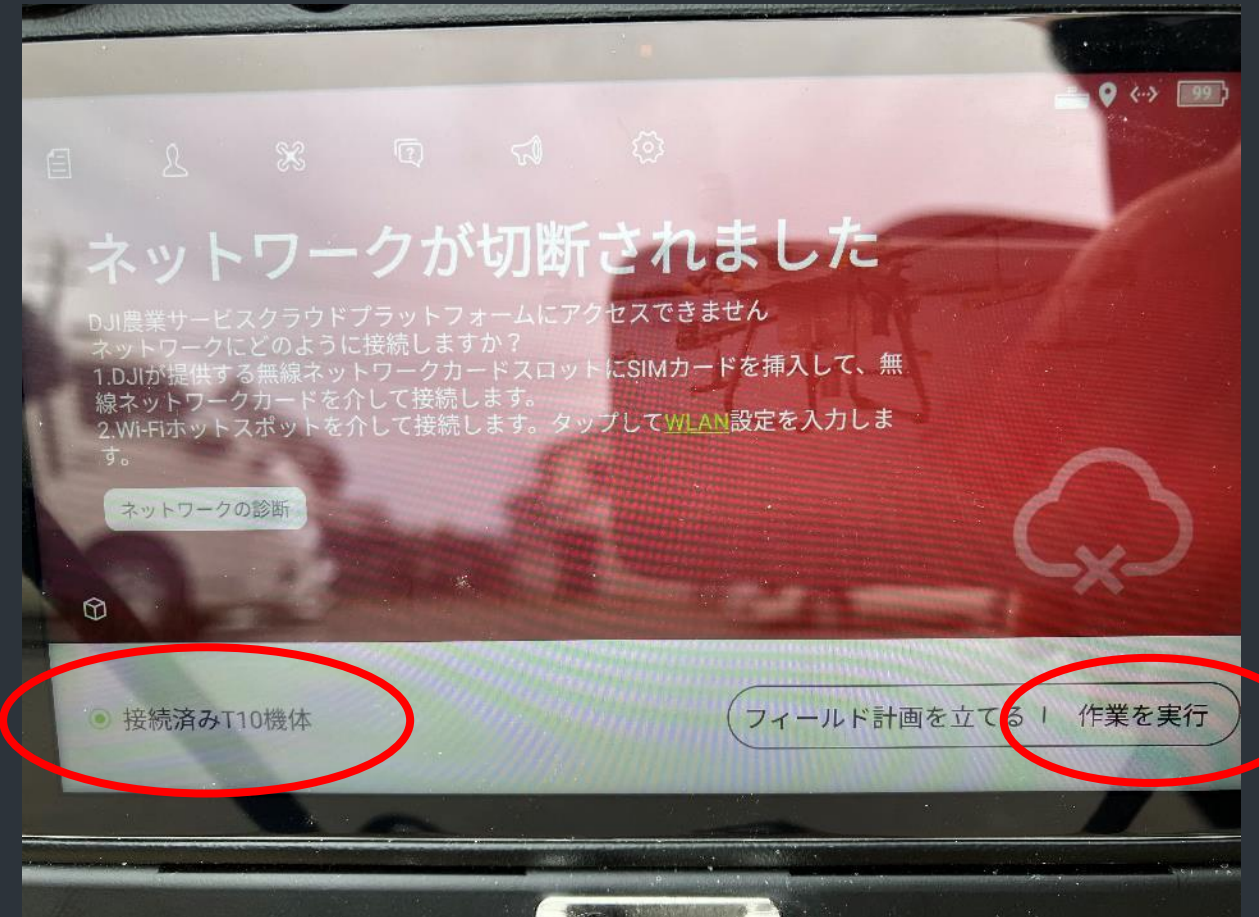


ステータスLED

電源ボタン(T10)

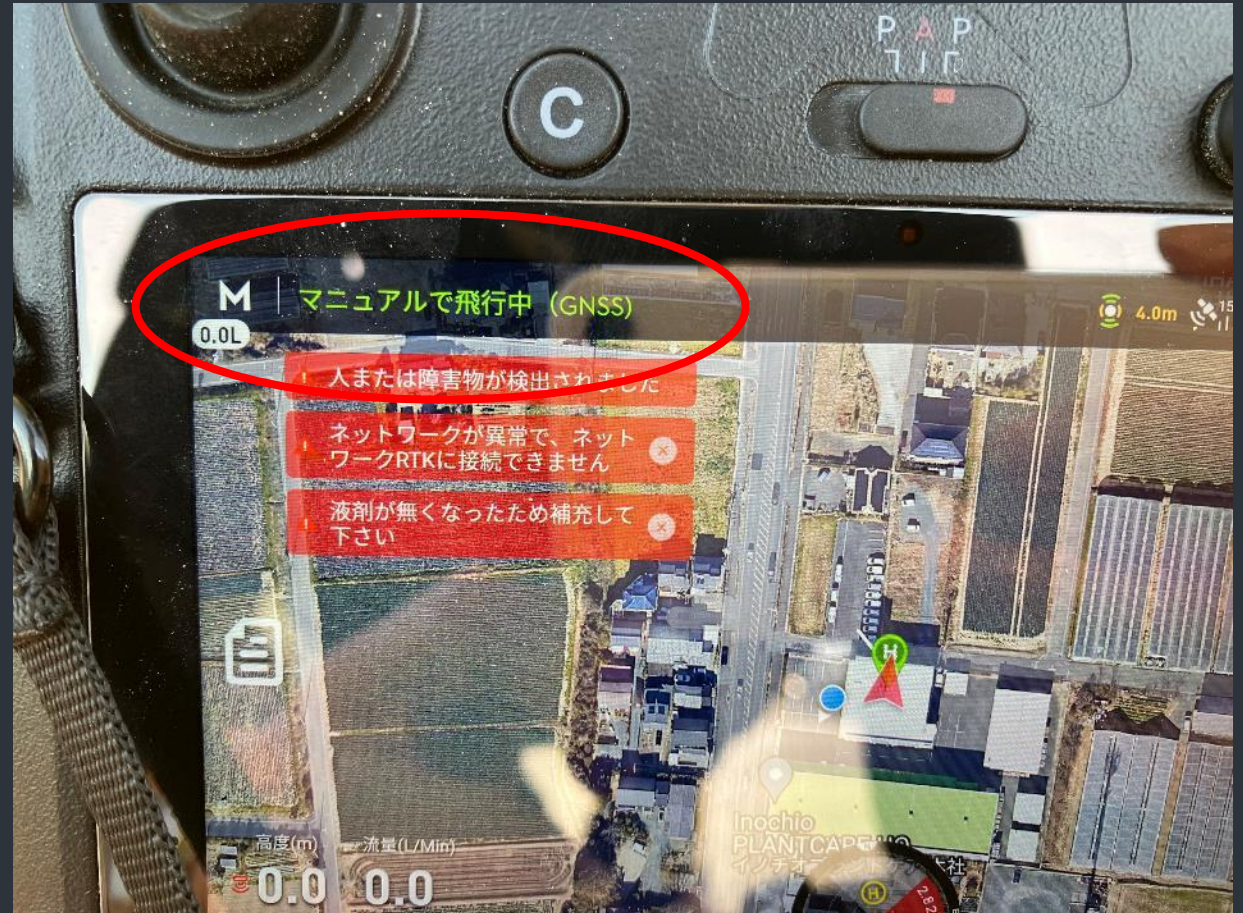
4.機体の状態を確認する

「接続済みT10(T30)機体」と表示されていることを確認し、右下の「作業を実行」をタップし、操作画面に移行する。



4.機体の状態を確認する

しばらく待機していると、GPSを自動で取得しディスプレイ上部のステータスバーに緑の文字で「マニュアルで飛行中 (GNSS)」と表示される。

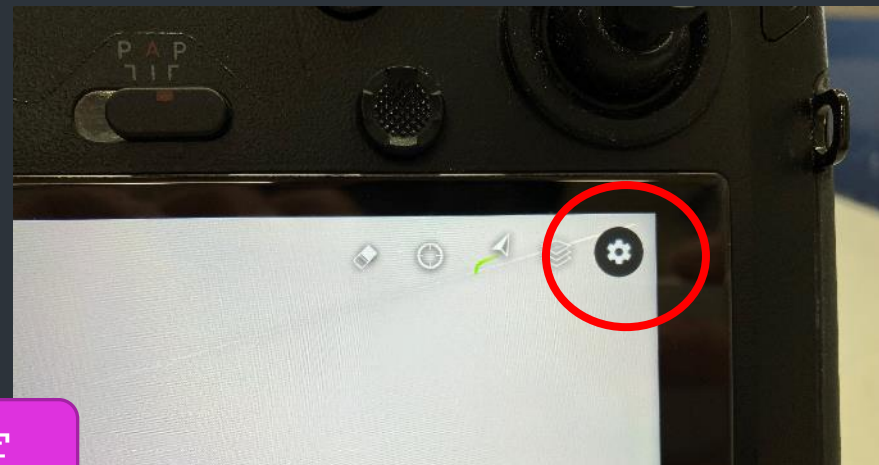


5.コンパスチェック・校正

ディスプレイ右上の歯車
アイコンをタップ



「機体の設定」内の
「詳細設定」をタップ

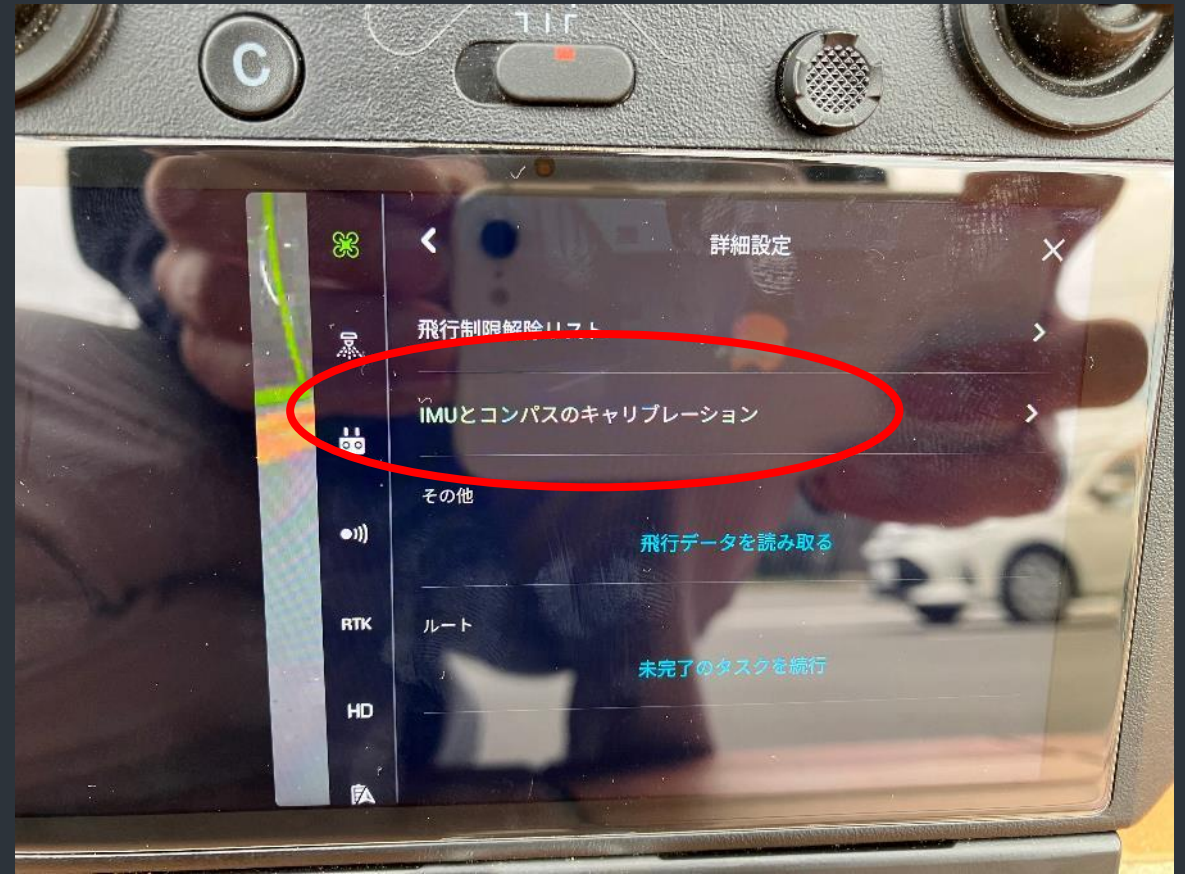


機体の設定



5.コンパスチェック・校正

「IMUとコンパスのキャリブレーション」をタップ

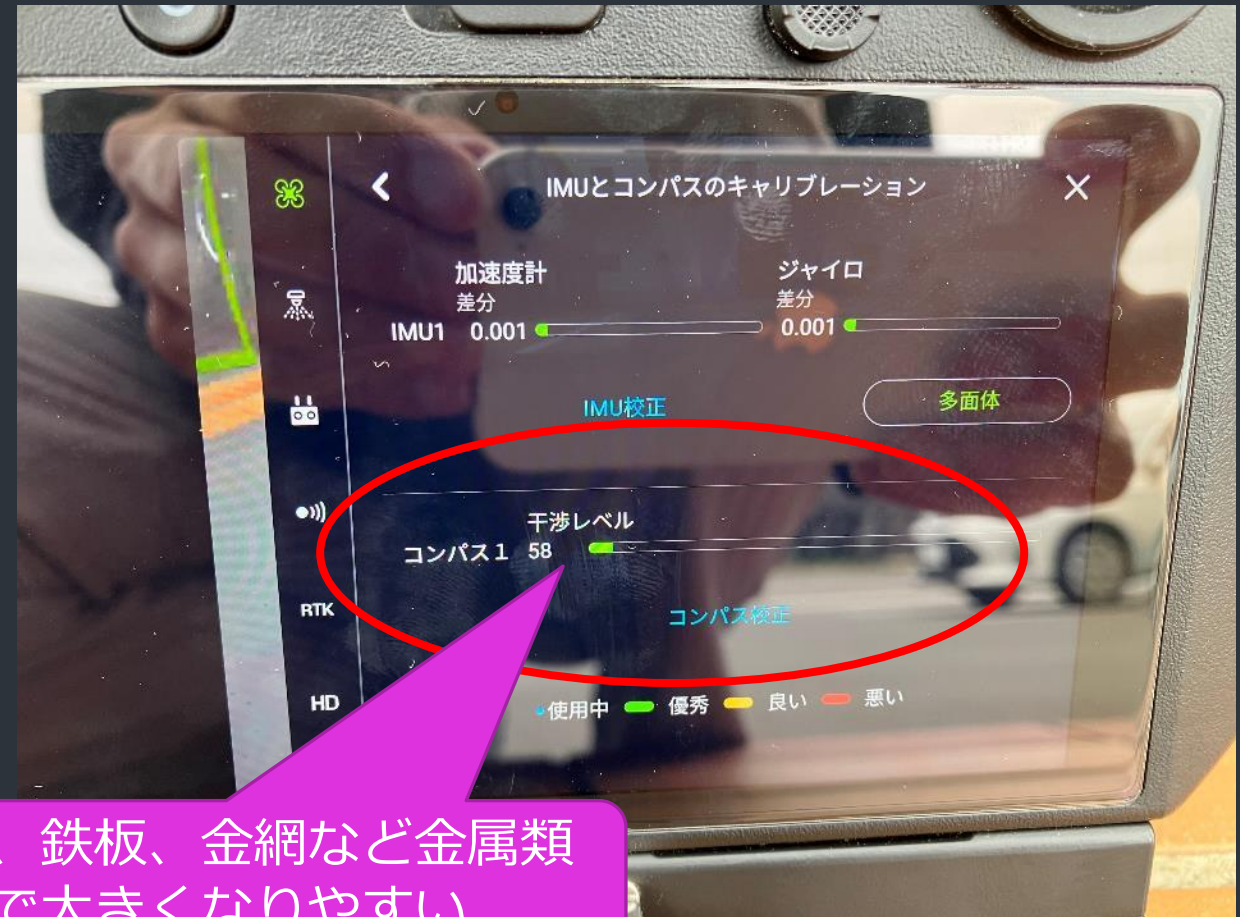


5.コンパスチェック・校正

「コンパス1」の数値を確認する。
数値が小さくバーが緑なら良好。

数値が大きい場合は機体の場所を
移動して再確認する。

改善しないときは下の「コンパス
校正」をタップし、画面の指示に
従ってコンパスキャリブレーション
を行う。



マンホール、鉄板、金網など金属類
の近くで大きくなりやすい

6. バッテリーの確認

歯車→「バッテリー情報」を
タップ。

14個のセルが表示されるので、
電圧の数値の差を確認する。
(正常時誤差~0.03程度)

異常がある場合はそのバッテ
リーの使用を控える。



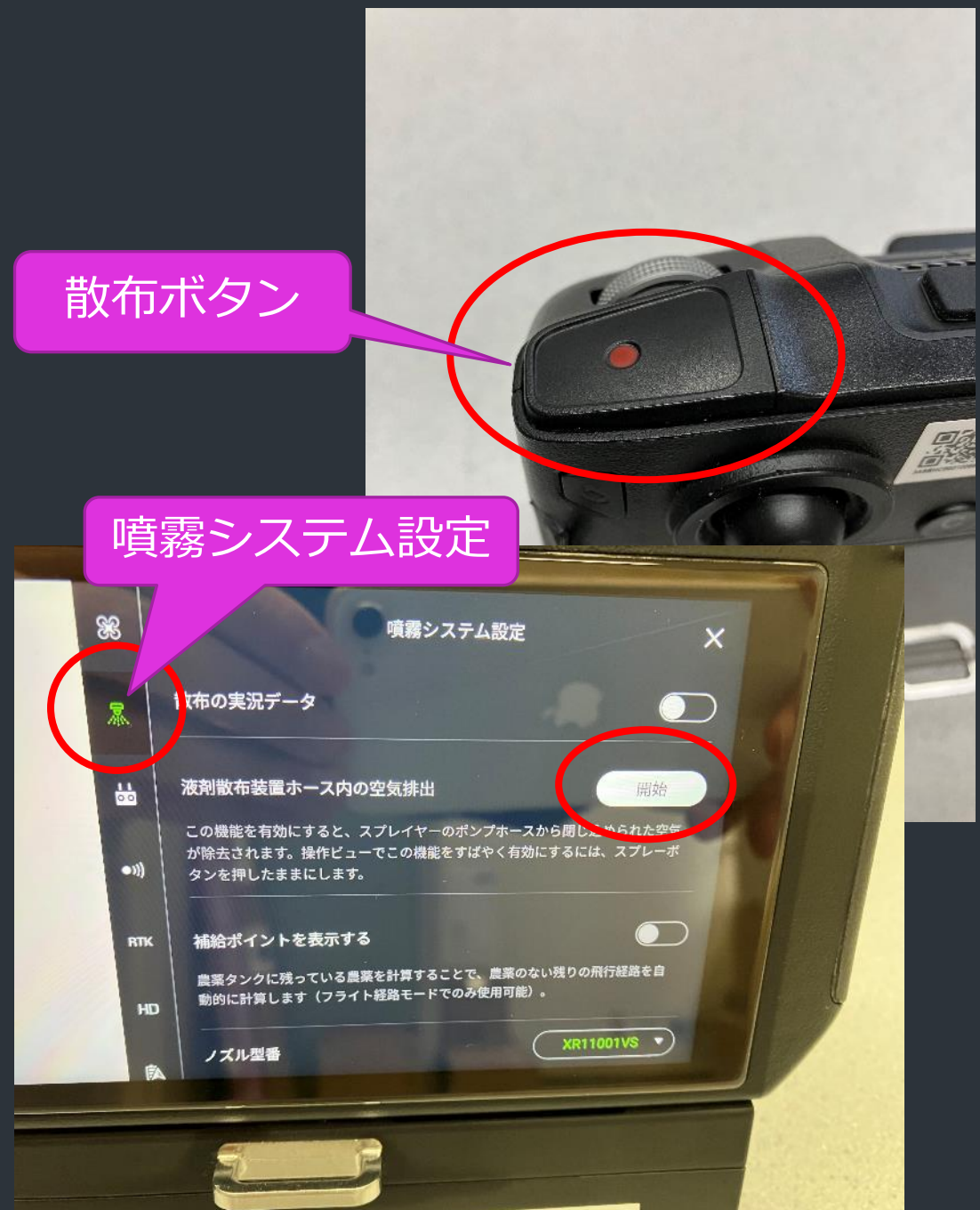
7.ポンプのエア抜き

液剤をタンクに投入し、送信機左上の散布ボタンを長押しするか、歯車→「噴霧システム設定」→「液剤散布装置ホース内の空気排出」の「開始」をタップして実行。

数回行い、全てのノズルから液剤が吐出されたら完了。

散布ボタン

噴霧システム設定



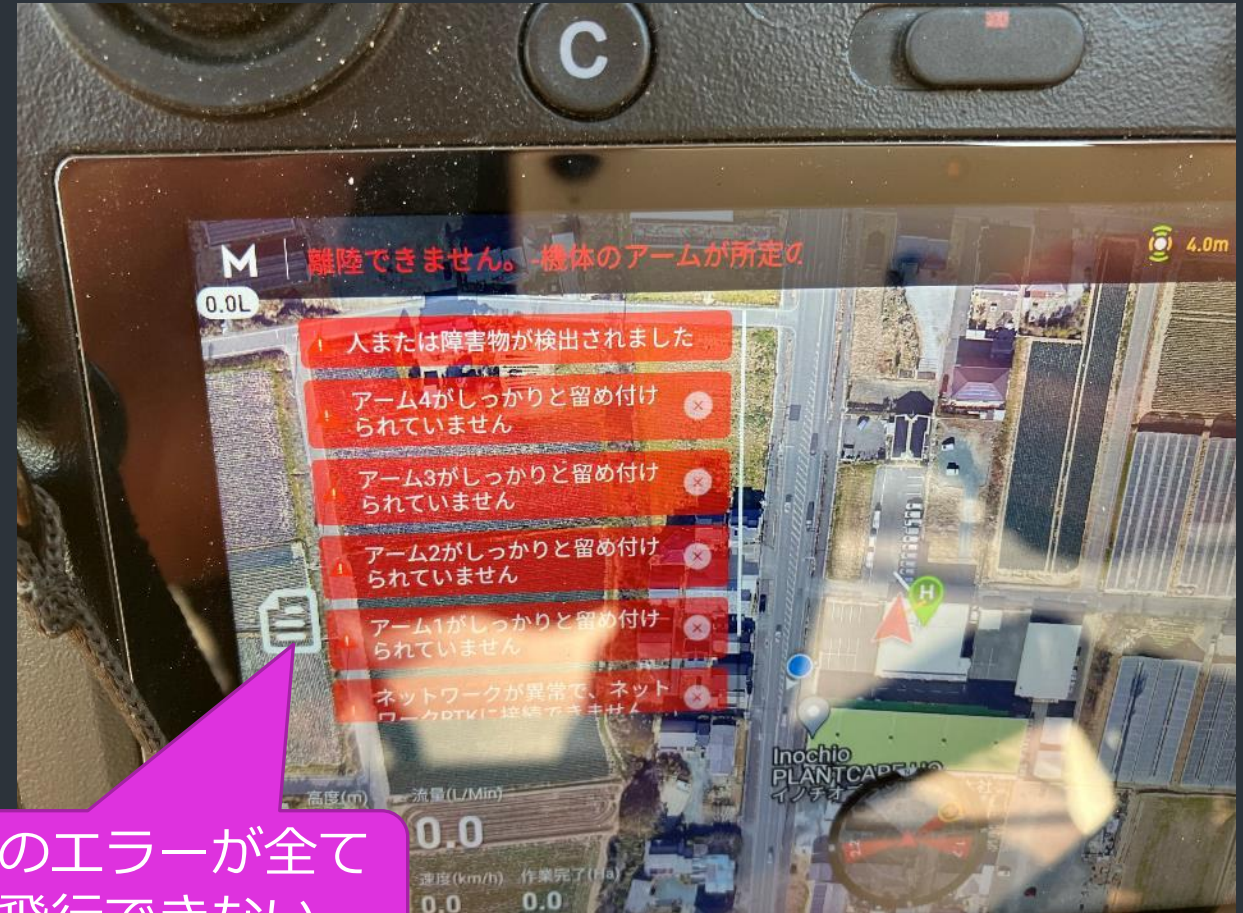
8. 飛行前最終確認

機体のアームロックが
すべて閉まっているか、
コンパスの数値は正常
か再確認する。



8. 飛行前最終確認

アームロックが閉まっていない場合、「アームnがしっかりと留め付けられていません」とエラーが表示される。

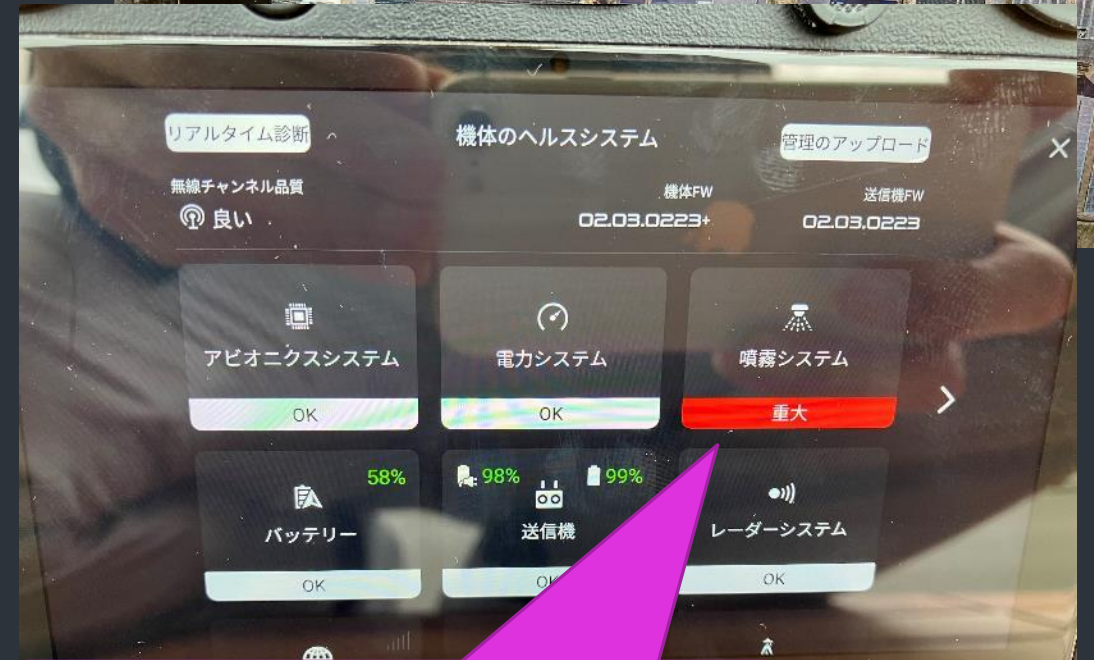
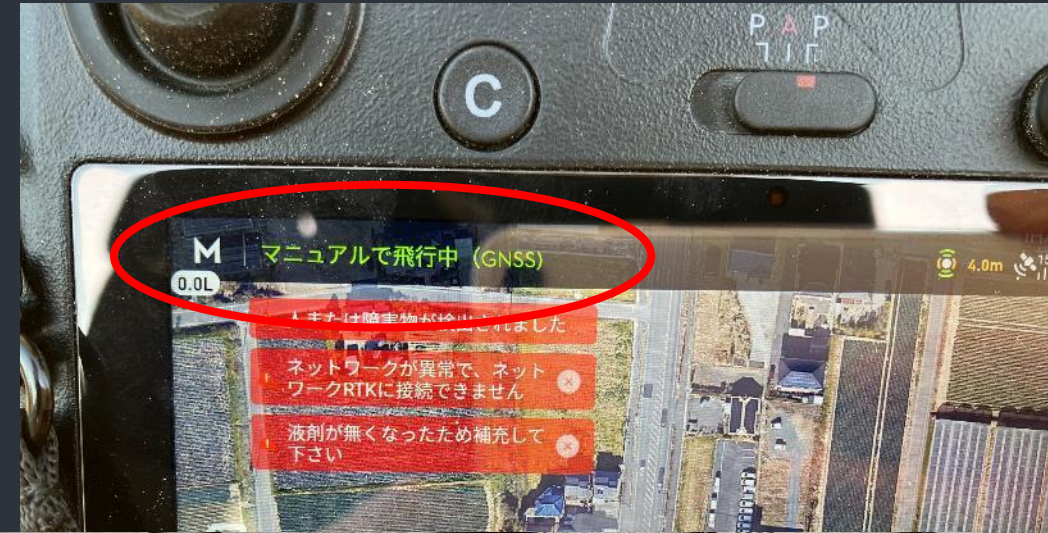


アームロックのエラーが全て消えないと飛行できない

8. 飛行前最終確認

ステータスバーをタップすると、「機体のヘルスシステム」が表示される。

各システムに異常がないかチェックする。異常がある場合、黄色や赤で表示され、タップすると更に詳細を確認できる。



ポンプ内に空気が入っている。
エア抜きで改善

8.飛行前最終確認

▶最後に、近くに人や車が近づいてきていないか、真上に低い電線がないかなど周りの状況を確認し、安全を確保してから飛行を開始する。

▶必ず機体の後ろに立って操縦する。

対面になっていると前後左右の操作が反転するため、操作を誤り重大な事故を引き起こす原因となる。

